

ネパールにおける農場内および農場外雇用と女性の状況

ヨヤーナ・ポッカレルさん(ネパール)

2011年の国勢調査ではネパールの人口は2,649万5,000人でしたが、その後急速に増加し、2015年には2,900万人を超えました。2008年の女性の就業率は80.1%に達し、対する男性の就業率は87.5%でした。男女の就業率は1998年～1999年(女性81.9%、男性90.2%)と比較すると下がっていますが、これはネパール人の若年層の就学率増加を反映しています。ILOはネパールの労働人口は2015年から2030年までに470万人、30.1%増加すると予測しています。そのためより長期的には、より多くの雇用機会創出が重要になってきます。これを実現できなければアラブ諸国への労働者の流出、特に若い男女の労働者の流出が増加するでしょう。

ケア・インターナショナルの最新報告書によると、ネパールの女性の就業率は54.3%で、女性の大半は農業に従事しています。2008年においては働く女性の84.3%は農業に従事し、製造業はわずか4.9%、卸売や小売業は3.9%のみでした¹。このデータに示されるように大半の女性が農業に従事していますので、農業を行う女性たちが直面する主要な課題と機会に焦点を当てて女性の現状や立場を説明したほうがよいでしょう。ネパールでは都市部農業は発達していませんので、農業活動に従事する女性は農村部の女性だといえます。

私はKFAW向けにこの記事を書くにあたって、農村部の女性と都市部の女性の違いについて深く考察しました。そしてこの概念を理解するために調査を始めました。国連によると、田舎に住み、農業、小口取引、職人、家内工業、小口生産業、および家事使用人としての仕事に従事する女性が「農村部」の女性と定義されています。

そしてこの定義によると、農業に従事しているこの80%の女性たちは、農村部の女性ということになります。これらのいわゆる農村部の女性こそが、私たちの毎日の食卓に実際に食べ物をもたらしてくれ、国の食料安全保障に重大な貢献をしてくれている人々です。

ここでは、80年代に少女時代を送ったシタ・グルンについての事例をお話したいと思います。私がシタと出会ったのは、私が両親とともに祖父の農場を訪れていたときでした。シタは、私の祖父が大きな農場を所有していた村にある、田舎の小学校に通っていました。私はそこに滞在した数ヶ月の間に彼女と友達になり、子供がよくそうするように一緒に多くの経験をし

¹ 国際労働機関 (ILO) 国別報告書 引用元- http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---asia/---ro-bangkok/---ilo-kathmandu/documents/publication/wcms_322446.pdf

した。しかし思春期を迎えた後は一緒に過ごす時間がなくなり、シタは私にとっては典型的な田舎の少女のような存在になりました。

30年の時が経ち、シタと私の間の共通点と相違点を振り返って考えてみて非常に驚きました。シタがまだ同じ村にいてどこにも行くこともできないのに対し、私はたくさんの経験をする機会に恵まれてきたことに気づいたのです。私たちの間の主な違いは、受けることができた教育レベルの違いでした。これによって私は、少女や女性のための教育の重要性を考えさせられました。彼女は両親に強いられた結婚のせいで、中等教育の後半で退学を余儀なくされました。シタは3人の子供を育てながら、まだ農場で仕事をしています。彼女は夫の家族の農場で働いても給料をもらえないので、夫や一族の男性から現金をもらうのに苦労しています。

彼女は、3人の子供たちに自分と同じ苦しみを味わせないように、子供たちは都市部のよい学校に通わせたいと切に願っているようです。このお話をすると、農業に従事しているネパールの80%の女性たちで、両親や夫の家族の農場以外で働く機会がない女性たちのことが頭に浮かびます。このいわゆる農村部の女性は、両親や夫の家族の農場で様々な農業の苦労を味わい、子供の頃の無邪気さと思春期の熱意を犠牲にしながら何年もの時を過ごしてきたのです。残念ながらシタのような農村部の女性の多くは、自分が耕し、雑草を取り、植物を植え、耕作し、灌漑し、収穫するその土地を所有してはいません。両親から相続した土地でさえ自由に利用できないのです。

世界のデータを見てみると、これがネパールの農村部の女性に限った窮状ではなく、世界で農業に従事する農村部の女性に共通する課題であることがわかります。例えば国際女性研究センターは、世界の食料の半分は全世界の農村部の女性によって生産されており、発展途上国では食物の60%~80%が女性によって生産されていると報告しています。にもかかわらずネパールを含む多くの南アジア諸国で活発に経済活動を行う女性の多くが自分の耕す土地を自由にできていないというのは残念なことです。

シタが土地を所有しているか聞いてみたのですが、残念ながらまだだそうで、また近い将来に合法的に土地を所有できる可能性はないと話していました。食糧農業機関 (FAO) の世界のジェンダー及び土地所有権データベースによると、2011年にネパールで女性が単独で土地を所有している割合はわずか10%でした。ネパールには、自分が耕す土地の所有権を持っていない農村部の女性は何百万人といわれるのです。政府を含め、私たちが、こういった女性たち、特に農業に従事する農村部の女性たちが土地の所有権を獲得するために、どのように支援できるのかが問題だと思います。



両親の農場で農業に従事する若い女性。